

2024 年度「卒業研究」(メディア社会学科)課題

各学期、選択した2つの課題について、最終的にレポート(各4000字以上)として提出すること。ChatGPTなどの対話型AIを用いてレポートが作成されていたと確認された場合は不可となります。あくまで、自分で文献・資料を収集し、自分で考えて論述してください。

<春学期>

【メ社1】黄盛彬

課題タイトル: 越境するポピュラーカルチャー

課題本文: 近年におけるポピュラーカルチャーのグローバル化、トランスナショナル化の現状やその背景、展望などについて論じること。具体的な事例や地域、または対象を取り上げて、関連の先行研究における理論的視点や概念、知見をレビューした上で、質的メディア分析またはインタビュー調査などの手法を用いて調査分析レポートを作成すること。

3点以上の先行研究の論文、文献などをレビューした上で、それに基づき、問いを設定すること。

質的メディア分析を用いる場合、国内外の複数の新聞や放送、その他インターネットメディアなどから、一定以上の記事データを体系的な方法を用いて収集し、質的言説分析または計量的テキスト分析などの分析手法を用いること。分析対象データの収集には、大学の図書館で利用可能な記事データベースを用いることが望ましい。インタビュー調査を用いる場合、分析対象の事例のポピュラーカルチャーのファンなどへの聞き取り調査を、5名以上に対して1時間以上のインタビューを行うこと。なお、分析対象は自由に設定して良いが、データ収集、インタビュー対象者の選定に際しては、事前に出題教員に相談すること。

なお、本課題を選択する履修者は、メディア社会学科の専門科目「グローバル・コミュニケーション論」を履修済みか、履修中であることが望ましく、その講義内容のレビューの上で、分析対象の事例、理論的視点などを選択することを勧める。

参考文献

樋口耕一(2014)『社会調査のための計量テキスト分析』ナカニシヤ出版

岩淵功一(2001)『トランスナショナル・ジャパン——ポピュラー文化がアジアをひらく』岩波書店

Jenkins, Henry, 2006, *Convergence Culture: Where Old and New Media Collide*, New York: New York University Press (=渡部宏樹・北村紗衣・阿部康人訳 (2021) 『コンヴァージェンス・カルチャー—ファンとメディアがつくる参加型文化』 晶文社)

キム ヨンデ(2021)『BTSを読む なぜ世界を夢中にさせるのか』 柏書房

McGray, Douglas, 2002, "Japan's Gross National Cool", *Foreign Policy*, May/June pp.45-54.

Nye, Joseph Jr, 2005, *Soft Power: The Means To Success In World Politics*, Public Affairs

佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法:原理・方法・実践』 新曜社

【メ社2】 井川充雄

課題タイトル: 「現代のメディアイベント」

課題本文: テレビが主導して集団的記憶を形成するとされる「メディアイベント」は、今日、どのように実施され、それが人々にどのような影響を与えているだろうか。最近(ここでは、さしあたり5年以内のものとする)の「メディアイベント」を選び、その社会的機能を分析しなさい。考察にあたっては、ブーアスティンの疑似イベント論、ダヤーンとカツのメディアイベント論を読み込み、それらを十分に踏まえ、さらにもう1点以上の学術書を読んだ上で、新聞記事、テレビ番組、インターネット上の情報などを豊富に引用・参照しながら具体的に論じなさい。

参考文献

- ・ダニエル・ブーアスティン(星野郁美・後藤和彦訳)『幻影の時代』東京創元社、1964年
- ・ダニエル・ダヤーン、エリユ・カツ(浅見克彦訳)『メディア・イベント 歴史をつくるメディア・セレモニー』青弓社、1996年

【メ社3】 井手口彰典

課題タイトル: 「マスク依存とコロナ禍」

課題本文: 指定された条件を満たすようレポートを執筆せよ。①～④の分量比は任意とする。利用する資料については『マスターオブライティング』を参考に必ず全ての典拠を明示すること。

「マスク依存」という言葉がある。この言葉について、

- ① コロナ禍以前にはどのような文脈で用いられていたか。3 件以上の新聞または雑誌（いずれも紙媒体）の記事を引用し、特に②との違いに留意しながら説明せよ。なお新聞記事の検索には、図書館が提供している新聞各紙の記事データベースを使うのが便利である。また雑誌記事の検索には、やはり図書館が提供している「大宅壮一文庫雑誌記事索引検索」が有益である。
- ② コロナ禍の発生を受け、「マスク依存」に関する言説にどのような変化が生じたか。①と同様に3 件以上の新聞または雑誌の記事を引用しつつ説明せよ。
- ③ 「マスク依存」が日本において特に顕著に見られる理由について、海外と比較しつつ考察せよ。なおその際、3 種類以上の資料（書籍、オンライン記事など媒体は問わない）を引用すること。
- ④ 今後、「マスク依存」の問題にどのように対処すべきか、上記①～③の内容を踏まえ、あなた独自の見解を述べよ。

(以上)

【メ社4】和田伸一郎

課題タイトル: 「メディアと『忘れられる権利』について」

課題本文: 2014 年、EU 司法裁判所は、EU 圏内に居住する個人が Google 検索エンジンの検索結果から特定のウェブページを削除するようリクエストすることができるという判決を下し、いわゆる「忘れられる権利」が認められた。

これに対応するべく、Google は、毎年、削除リクエストについての「透明性レポート」を公開しており、そこで、どれだけのリクエストがあり、Google 側が審査をして、どういう理由で除外したか、あるいは除外しなかったかについて、レポートの内容の一部を見ることができる。

課題は、三つある。

■①

「忘れられる権利」が EU 圏内で施行された経緯について簡単にまとめなさい。

■②

「透明性レポート」について。

https://transparencyreport.google.com/eu-privacy/overview?hl=ja&privacy_requests=country::year:2016;decision:&lu=privacy_requests

このサイトの中の「リクエストを探す」というセクションで、以下の三つのタブがある（「国」「期間」「決定」）。ここで「国」のタブは「すべての国」に設定し、期間は、2019 年にし、「決定」は、そのまま「決定」に設定した上で、表示されたリクエスト内容と結果について、除外された URL と、

除外されなかった URL に分けて、どういう理由から、それぞれ除外されたのか、あるいは除外されなかったのか、述べなさい。

■③

Google 検索から検索結果が削除された URL の中には、例えば、BBC Online の記事リンクなども含まれている（ただし、Google 検索から消えるだけで、記事のサイト、URL 自体は削除されず、BBC のサーバーに残っている）。

これに対し、BBC は、2014 年以降、毎年、除外された記事の URL を表示するウェブサイトを公開している（ただし、この公開は BBC の厳格なポリシーに基づいて行われている）。

<https://www.bbc.co.uk/blogs/internet/entries/1d765aa8-600b-4f32-b110-d02fbf7fd379>

ここでは、記事に載せられている本人か、あるいは本人ではない誰かによるリクエストに基づいた、記事内に含まれている個人情報保護するという「忘れられる権利」が、「報道の自由」、「知る権利」と抵触するということが起きている。この問題について、参考文献を三つ以上あげて、論述しなさい。

<秋学期>

【メ社 5】橋本晃

課題タイトル：ロシアによるウクライナ侵攻におけるメディア統制・利用・プロパガンダ

課題本文： ロシアによるウクライナ侵攻での、ロシア・ウクライナ双方のメディア統制・メディア利用・プロパガンダについて、2003年までのアメリカの戦争（グレナダ侵攻、パナマ侵攻、湾岸戦争、コソボ戦争、9.11 同時テロを受けてのアメリカによるアフガニスタン攻撃、イラク戦争など）におけるメディア統制・プロパガンダと比較しつつ述べなさい。単にスターリンクの活用、フェイクニュースなどの情報通信技術のさらなる発展と活用といった見えやすい現象にとどまらず、戦争の枠組み自体の大きな変化も念頭に置きつつ、また前哨戦となったエストニアへのサイバー攻撃（2007年）、ロシア・ジョージア戦争（2008年）、ロシアによるクリミア併合（2014年）の際の物理的な戦闘とメディア統制、サイバー攻撃の状況も踏まえて考察しなさい。

なお、ネットの記事だけでなく、本格的な研究書を3冊以上読むことが求められる。日本語で書かれた情報は質量ともに限りがあるので、外国語で書かれた記事なども目を通すことが望ましい。ウクライナの戦争自体もそこにおけるメディアの問題をめぐっても本格的な本は少なくとも日本語ではないので、橋本晃『国際紛争のメディア学』（青弓社、2006）でアメリカの戦争におけるメディアの問題を整理し、そのうえでロシアの戦争における諸問題を考察することが推奨される。

【メ社6】川畑泰子

課題タイトル: 「オンラインソーシャルネットワーク上で観測されるあらゆる社会分断に関する言論空間の問題点に関する考察(ケーススタディなど)」

課題本文:

COVID19 禍においてオンライン上でのリスク・コミュニケーションが増加するにつれさらにあらゆるリスク管理が必要な状況となっている。また、COVID-19 禍でオンラインコミュニケーションが増加したことで、表出した社会的な分断(人種、身体的特徴、信条など起因とする)に関する議論についてのオンラインメディアを起点とする意見の先鋭化、及びに併発する意見の社会的分断に関する議論も必要となった。

上述の国際紛争、より加速しつつある SNS 上における誹謗中傷に関する議論、民族・人種差別を喚起させる言論空間で併発される社会的分断に関する議論などの諸社会問題、事例をテーマとして論述してください。

テーマ事例

- ① コロナ禍に際して表出した社会的分断に接続する言論空間に関してオンラインメディア、SNS 上での問題点に関して
- ② 国際紛争に付随する民族、人種差別に関する言論
- ③ フェイクニュース、誹謗中傷、著作権濫用、フェアユース規程とこれからの日本経済圏とオンラインメディアの課題など
- ④ 身体的特徴、オンライン空間上での意見を述べる体勢に関する議論(例えば、顔出しをしない、または過剰に露出することに関して発生する社会的分断を想起する意見の分裂など)
- ⑤ デジタル・ディバイドに関する諸問題(デジタル環境上でのソーシャルスキル、知識を元にする個人差などを起因とする意見の分裂、いじめ問題など)また、以下の観点、議論、記事からの考察を重視されたい。

レポート作成の要綱(2024 年度・卒業研究2)

- ① <https://docs.google.com/document/d/11Ea-cdo7UTJlcNjDZsxfZVXZXD5gN9vQu6nZVyFy7pU/edit?usp=sharing>

執筆につき以下のルールを遵守すること。

そして、積極的に面談予約などの連絡を取り執筆を進めること。

- (1) 最低 2 つのグラフ図を用いて論述すること
 - (2) 上記(1)のグラフはデータを示すグラフ図であること。(ニュースサイトなどの HP や SNS などからグラフ図を引用する場合、URL などの出典を明らかにすること)を用いて 論述すること。
 - (3) フォントサイズは 10.5-11pt が望ましい。
 - (4) フォントの種類は指定しない。
 - (5) レポートタイトルを必ず記述すること(例:海外フェイクニュースに関する分析 など) (6) 自分自身の観点での考察を入れること。
- ② で紹介している文献、最新のオンライン上での多様な情勢に関してデータなどを参考にしてください。(データ、グラフなど引用、参照をしてください。)

レポート作成にあたり、文献の引用、出典などに関する参考(テンプレート)を読んで、作成をすること

参考文献(推奨文献)

- [1]北口末広,2020,“<論文>ビッグデータとフェイクニュースがもたらす社会への影響—個人情報保護と人権確立の視点で一.”近畿大学人権問題研究所紀要,(34):1-34.
- [2]令和 2 年上半期におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について
- [3]北口末広,2020,“<論文>ビッグデータとフェイクニュースがもたらす社会への影響—個人情報保護と人権確立の視点で一.”近畿大学人権問題研究所紀要,(34):pp.1-34.
- [4]「個人情報の保護に関する法律等の一部を改正する法律」の公布について,閲覧日 2020 年 12 月
- [5]橋元良明,片桐恵子,木村忠正,是永論,辻大介,森康俊&大野志郎,2020,“中高年齢層の情報行動.”東京大学大学院情報学環情報学研究.調査研究編
=Researchsurveyreportsininformationstudies.Interfacultyinitiativeininformationstudies,theUniversityofTokyo,36,:pp.264-319.
- [6]・浅田太郎,竹田麻友子,吉富康成,田伏正佳,“「いじめ語」検出による学校裏サイト監視支援システム”,情報科学技術フォーラム講演論文集 9(3),pp.679-680(2010).
- [7]浅田太郎,伏見朋恵,吉富康成,田伏正佳,“「いじめ語指数」と個人名検出を併用した学校裏サイト監視支援システム”,情報科学技術フォーラム公園論文集 10 巻 3 号,pp.749-750(2011).
- [8]レポートが ChatGPT で作られたことを検出するシステムを開発…AI とのいちごっこ
<https://www.businessinsider.jp/post-264206>
- [9]ソーシャルメディア・スタディーズ / 松井広志, 岡本健編著
- [10]ケアメディア論：孤立化した時代を「つなぐ」志向 / 引地達也著
- [11]メディアと感情の政治学 / カリン・ウォール=ヨルゲンセン著 ; 三谷文栄, 山腰修三訳
- [12]「許せない」がやめられない : SNS で蔓延する「#怒りの快樂」依存症 / 坂爪真吾著

- [13]「いいね!」戦争：兵器化するソーシャルメディア / P.W.シンガー, エマーソン・T.ブルッキング著；小林由香利訳
- [14]ソーシャルメディアと「世論」形成：間メディアが世界を揺るがす / 遠藤薫編著；西田亮介 [ほか] 著
- [15]ネット炎上の研究：誰があおり、どう対処するのか / 田中辰雄, 山口真一著
- [16]ICT 社会の人間関係と心理臨床：スマホ依存、ネット依存対策に関する臨床心理士らの提言 / 小川憲治, 織田孝裕編著
- [17]スマホチルドレン対応マニュアル：「依存」「炎上」これで防ぐ! / 竹内和雄著

【メ社7】木村忠正

課題タイトル：「ステルスマーケティングの社会的分析」

課題本文：

ステルスマーケティング (stealth marketing) とは、「ステマ」とも呼ばれ、広告であるのに、広告であることを隠して、消費者に宣伝行為をすることである。ステマは、サクラを用いた宣伝活動など、従来から存在しているが、ネットの普及とともに、さまざまな問題が生じ、社会的課題として対策が求められてきた。日本では、「ステマ規制」が、景品表示法の改正として具体化され、2023年10月に施行された。そこで、「ステルスマーケティングの社会的分析」というタイトルでレポートを執筆しなさい。

レポートでは、必ず、以下の (A) ～ (D) の4点について議論すること。

(A) 「ステマ」が、改正景品表示法でどのように規定され、具体的にどのような行為、表示が「ステマ」とされ、誰が、いかなる処罰の対象となるのかを、各種資料をもとに、自分なりに整理して示すこと。

(B) 日本で「ステマ」が社会問題化した一つの主要な契機が2012年の「ペニオク詐欺」である。当時の新聞、雑誌記事を検索し、2012年の「ペニオク詐欺」とはどのようなものかをまとめ、そこで何を社会的問題と考えるか、情報発信側と受信側、それぞれの観点から、各自議論を展開する。その際、ラザースフェルドの「2段階の流れモデル」に言及し、議論の中に組み込むこと。

(C) (B) の議論を踏まえた上で、各自、自分がネット上で見かけたステマ (と思われる) 事例をとりあげ、その情報が仮に「広告」と明示された場合と (ステマと思われる) 明示されていない場合で、どのような効果の違いが生じるかを、様々な状況による多様な可能性を含めて議論する。

(D) それ自体はステマではないが、ステマに接続しうる問題として、2016年WELQ(ウェルク)問題が生じた。WELQ(ウェルク)を「キュレーションサイト」として捉えた上で、当時の新聞、雑誌記事を検索し、2016年に起きたWELQ(ウェルク)問題とは何であるかをまとめ、さらに、社会的観点から、WELQ問題をステマの問題と接続し、どのように議論できるかを考えて各自展開する。

<注意>レポートでは、「学術的資料」を最低5点、適切に参照すること。なお、「学術的資料」とは以下の資料を指すことにする。くれぐれも、議論の根拠や出所が不明のウェブ記事をもとにはしないこと。

- 学術的組織(「・・・学会」(例えば「社会情報学会」)や大学(例えば立教大学)、学術書出版社が刊行している学術誌に掲載されている論文
- 学術的組織、出版社が刊行しているオンライン学術誌掲載の論文は該当しますが、学術的組織、出版社刊行が確認できないネット上の(論文的な)記事は含みません。
- もちろん、学術的組織、出版社刊行ではない(確認できない)記事、政府機関や民間シンクタンク、研究所などにある論文や資料も利用できますが、「学術的資料5点」にはカウントできないということです。

【メ社8】是永論

課題タイトル: 「日本の青少年におけるスポーツのあり方について」

課題本文:

いわゆるコロナ禍での外出制限以前から、日本では子どもの体力低下とスポーツ離れが指摘されてきた(田中・森田[2021]など)。また成年におけるスポーツ観戦への態度には、青少年期の運動体験が影響していることが指摘されている(下窪[2022])。

そこで本課題では、指定の調査データを分析したうえで(注1)、タイトルに関連したテーマと仮説を各自が設定し、その仮説について文献資料(注2)や分析データ(注3)をもとに検証・考察したもの(注4)をレポートにまとめることを課題とする。

10月14日(月・祝日授業日)までをめぐりに出題担当者となるべく面談をし、データの使い方や進行計画の確認を行った上で作成を進めること。また**中間提出の後は担当教員と必ず面談**をし、仮説を中心に内容の確認を受けること。

以上の面談は本人からの申し出の上で、原則オンラインで実施する(申し出がなければ実施は保証されないので注意)。

分析にあたっては、社会調査法3で使用したHADの利用を推奨する。

※課題の作成にあたっては、注にある条件にしたがうこと。

注1：JNN データアーカイブの使用について <https://www.jds.ne.jp/datebase01j/>

データをウェブ上で操作し、クロス集計などにより分析を実施する(学内での使用が原則となる)。ユーザーIDの配布準備が整い次第、メールで課題履修者に通知し、本人からの確認の連絡を受けた上で、さらにデータベースのリンクを通知するので、大学アドレスへのメールをよく確認しておくこと(本人からの確認の連絡がない場合は、IDが配布されないので注意)。

注2：下記の文献や、そこで引用されているものなどを適宜参照のこと。

- ・是永論 2014 「スポーツ文化とコミュニケーション」、[辻大介ほか『コミュニケーション論をつかむ』](#)、有斐閣、191-199 頁
- ・是永論 2016 「インターネット：検索からできごとのエスノグラフィーへ」、[藤田真文編『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』\(第2版\)](#)、ミネルヴァ書房、164-192 頁
- ・田中充・森田景史 2021 『スポーツをしない子どもたち』扶桑社新書
- ・[下窪 拓也 2022 「スポーツ観戦者の社会的属性の検証—社会経済的地位と性別の観点から—」、『スポーツ社会学研究』30\(2\),pp.101-113](#)

注3：HAD による分析用に下記のエクセルデータを履修者で共有するので、各自で活用のこと(各データの概要は下記のリンクを参照)。

- ①「子ども・青少年のスポーツライフ・データ」(笹川スポーツ財団) 2010 および 2019 年データ(12~21 歳)
https://www.ssf.or.jp/thinktank/sports_life/datalist/index.html
- ②「スポーツライフ・データ」(笹川スポーツ財団) 2010~2018 年データ(18 歳以上)
https://www.ssf.or.jp/thinktank/sports_life/index.html
- ③「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(スポーツ庁) 2018~2019 年データ
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/sports/1402342.htm

注4：考察対象となるスポーツおよびデータの調査時期について

調査データとして扱われている競技・種目のうち、なるべく一つに絞って考察することがのぞましい。また、分析する要因が複雑になるため、なるべく2020年以前のコロナ禍前に調査されたデータの利用を推奨するが、コロナ禍に関連した考察を行いたい場合は、別途データを提供するので、相談のこと。

以上